

令和8年度 東三鷹学園三鷹市立第一小学校 学校経営方針

令和8年4月1日

校長 牛山 聡

開校 134 年を迎えた三鷹市立第一小学校。地域に根差した教育活動を展開する伝統校において、子どもたちのために伝統を受け継ぎつつ、令和の新しい教育活動にも教職員が一丸となって取り組むため、以下の学校経営ビジョンを策定する。

1 東三鷹学園の教育目標

豊かな心を持ち、地域とともに生き、人間力・社会力にあふれ、国際社会に貢献する児童・生徒の育成を目指す。

○学力を育む学園

【児童・生徒像】 基礎的な学力をもつ子ども 学び続ける意欲をもつ子ども

【目指す資質・能力】 自ら課題を見付け、協働して解決する力

○人間力を育む学園

【児童・生徒像】 心豊かでたくましい子ども 主体的に判断し行動する子ども

【目指す資質・能力】 多様な考えを理解し、心身の健康を保つ力

○社会力を育む学園

【児童・生徒像】 他者とすすんで関わる子ども 地域とのつながりを大切にする子ども

【目指す資質・能力】 自他を尊重し、人間関係を築く力

※「人間力」…基礎的な素養を身に付け、自立して考え判断し、心身ともに健やかに力強く生きていくための総合的な力

※「社会力」…多様な個性を尊重し、適切な人間関係を結びながら、社会に参画し、共に生きていく力 (三鷹市教育ビジョン 2027 より)

2 東三鷹学園三鷹市立第一小学校 教育目標と目指す児童像

第一小学校の教育目標を達成するため、組織的な運営と効率的な業務管理を進め、以下の経営方針に基づいた教育活動を行う。

【第一小学校 教育目標】	【目指す児童像】
・ゆたかな心をもつ子ども	→ 感受性に富み、思いやりのある子供
・進んで学ぶ子ども	→ 主体的に学び続ける子供
・健康でたくましい子ども	→ 自他を尊重し、心身ともにたくましい子供

3 第一小学校が目指す学校像と経営方針

(1) 目指す学校像

- ① みんなで共育する学校
- ② 楽しく学ぶ学校
- ③ 快適な学校

(2) 経営方針 【 】の中は目指す学校像

- ① 家庭や地域と共に子どもを育てる【みんなで共育する学校】
保護者や地域の思いや願いに寄り添うとともに、新しい教育の動きも取り入れ、
ともによりよい学校を創造していこうとする機運を醸成し、子どもを育てる。
- ② 楽しい授業を創造する【楽しく学ぶ学校】
確かな児童理解に基づいた教材研究を最優先し、すべての児童が分かり、自然と
学びたくなるような授業づくりに全力を注げるように、教員が相互に授業技術を
磨く風土を醸成し、教員の専門性が向上できるようにする。
- ③ 安心・安全な環境を作る【快適な学校】
共感、受容を基本とし、ルールが守られた規律ある学年学級づくりにより、すべ
ての児童が大切にされ、安心して快適な学校生活を送れるような環境を作る。

以上の経営方針を分かりやすいスローガン（合言葉）で表現して、教職員、保護者、及び地域への浸透を図ることで一小一丸となってより良い学校づくりを推進していく。

【スローガン（合言葉）】

『みんなで 楽しく 快適な 一小』（にしよう）

みんなで…家庭や地域と共に

たのしく…楽しく学ぶ

かいてきな…安心・安全なで快適な環境

一小

4 目指す学校に迫るための具体的な方策

(1) 【みんなで共育する学校】に迫るための方策

- ① 保護者や地域の方との信頼関係を深めるため、**コミュニケーションの機会を多く作る**。特に保護者に関しては、円滑なコミュニケーションを図るため、**可能な限り直接対話をする**ことを基本とする。
- ② **全教員が、学校が地域の中心である（スクールコミュニティ）という意識をもつとともに、農業体験等全教育活動を通して子ども一人ひとりに学校の一員、地域の一員としての意識を高めさせ、歴史と伝統ある学校・地域への愛着を深めさせる。**
- ③ 全ての教科等において、可能な限り**地域の方々に授業や学校行事などに関わってもらい機会を意図的に設定するよう努めるとともに、地域教材の開発を進め、活用を図る。**（校務分掌に位置付ける⇒特別委員会「**地域連携 小中・小小交流**」）
- ④ **ホームページを定期的に更新する等効果的に活用し、**学校生活の様子について児童の成長の様子や教職員の熱心に活動する姿、地域と連携している様子など、「三鷹一小らしさ」を積極的に家庭や地域に公開・発信する。
- ⑤ 地域行事に関する情報を全教職員に提供し、可能な限り参加を呼び掛けることで地域との信頼関係をより深められるようにする。
- ⑥ **学校教育活動や地域と連携した授業を通して、三鷹第一小学校が一致団結して伝統を受け継ぎつつ、未来を創造しようとしている姿勢を地域社会に積極的にアピールしていく。**（マスコミ等への発信）
- ⑦ 1学期の通知表の所見に代えて、個人面談の充実を図る（**対話重視**）。その際、学校での学習状況や学校生活の様子について、ノートや作品を示して説明する等きめ細かく保護者へ伝える「通知表プラス1」を実施すると共に、保護者の意見を大切に扱う。

(2) 【楽しく学ぶ学校】に迫るための方策

- ① 学園研究は9年間を見通した研究、校内研究は、その年度の児童の実態を踏まえた、より実態に近い研究を行う。いずれも**児童が主体的に学べるような授業改善**を目指していく。
- ② 全教員が社会科、生活科、総合的な学習の時間等を中心に、全ての教科において児童が主体的に問題を追究して解決していく「**問題解決的な学習**」に取り組む。
- ③ 主体的に「学習問題」を追究するための手立てとして、**導入の時間を特に大切にし、**教材との出会いを工夫した授業づくりに努める。

- ④ 導入の時間の工夫を増やすため地域巡検を行い、地域教材の開発とともに、人材発掘に努める。
- ⑤ 児童の実態や教員構成等を踏まえ、**学年ごとに創意工夫した教科担任制に積極的かつ計画的に取り組み、授業準備の効率化を図ると共に、児童を複数の教員で多角的に見て理解を深めるようにする。**
- ⑥ 全ての学年で、社会科や生活科、総合的な学習の時間等を中心として、様々な教科等の学習において、地域人財と積極的に連携した授業を展開する。
- ⑦ 田植え体験、麦打ち、とうもろこし収穫体験、こころの劇場、席書会、新川囃子等地域や日本の伝統芸能、季節の行事に触れる**体験活動を重視し、児童の興味関心の幅を広げる。**
- ⑧ 全教員が毎日、重点的に準備、工夫をした授業を展開する「**一日一実践**」を週ごとの指導計画に確実に位置付け、**(★印を付ける)** 具体的に実践する。
- ⑨ 毎学期設定する「**授業参観WEEK**」において、いわゆる空き時間に他の学級の授業を積極的に参観し、自己の授業改善に生かすようにする。
- ⑩ デジタル教科書やオクリンクプラスの活用等タブレット端末を効果的に学習活動に位置付け、授業を展開する。
- ⑪ 長期休業日の課題として、様々な機関が募集しているコンクール等を整理し、積極的に情報提供することで、児童の主体的な学びを支援する。

(3) 【快適な学校】に迫るための方策

- ① **いじめは、どの学校、どの学級でも起こり得ることであるとの認識のもと、確かな児童理解に基づく学級経営を展開するとともに、教職員間の情報の共有化を図ることにより、いじめの未然防止、早期発見、迅速な対応を徹底する。**
- ② **いじめの未然防止、早期発見、迅速な対応を行うため、いじめ防止対策推進法に基づいた事例研修を行う。**
- ③ 教室環境を整備する。教室は、児童にとって学習する場、生活する場であるとの認識から、教室内にゴミが落ちていない、ロッカーが整理されている、掲示物がしっかり貼られている、机がきれいに並んでいる等**日常的な環境整備**に努める。(割れ窓理論)
- ④ **チャイムと同時に始まりチャイムと同時に終わる授業**を展開する。
- ⑤ 「自分の命は自分で守る」ための安全教育を計画的に推進するとともに、「**子供たちの命は、私たちが守る**」という教職員の**危機意識を高める**ことで、安全教育と安全管理が連携した学校安全を組織的に展開し、安心・安全な学校の実現を図る。
- ⑥ 全教職員が、学校安全計画に基づき、安全教育の充実を図るとともに、子どもの安全を最優先に考えて通学路の安全点検や学習活動の安全管理の徹底、避難

訓練などを確実に行う。

- ⑦ 学習活動による様々な安全リスクを想定したきめ細かい指導計画を立てるとともに、緊急時における教職員の連絡体制の周知徹底を図る。
- ⑧ 食物アレルギーの対応など、個に応じた安全な給食を提供するため、**面談を通して**家庭や関係機関との綿密な連携を図る。
- ⑨ 理由を問わず、暴力を行った児童については、毅然とした態度で、指導を行う。
- ⑩ 一小の強みである人数の多さを利用して、多様な考え方や付き合い方を学び、折り合いをつけて一緒に課題を解決していく力をつけることなどをねらいとして、令和9年度から全学年毎年クラス替えを行う。

(4) 働き方改革に迫るための方策

- ① 全教職員の理解と協力のもと、慣例として続いてきた行事ややり方、会議、業務分担に対して、**最上位目標を考慮しながら**、削減、縮小を図り、「学校における働き方改革」を着実に進め、**専門職としての教員本来の業務に専念できる時間を確保する。**
- ② 毎週（月曜日）を「No 残業 Day」と位置付け、不要不急の会議を設定しない。
- ③ 余剰時数は最低限にして学期末や学年末には、午前授業や5時間授業を計画的に設定する。また、**通知表提出1週間前には、原則一切会議を入れないこと**として、教員の事務作業の時間を確保する。
- ④ テストの枚数は最小限かつ AI 自動採点機能等を積極的に活用して、採点に費やす時間を減らす。
- ⑤ 学校だよりを初めとした各種お便りは、校支援による配信を中心に言い、ペーパーレス化を推進する。

(5) 人材育成に迫るための方策

- ① **教職員一人一人が互いに思いや願いを大切にして、認め、励まし、協力する姿勢を基本としたコミュニケーションをとること。**
- ② 特に、**授業改善については**、教職員一人一人のアイデアを尊重して、失敗を恐れず、まずは行動することを奨励し、**新たな教育活動に挑戦していく機運を組織内に醸成する。**
- ③ 将来の管理職を育成するため、教職員に可能な限り分掌を任せ、組織的にやり遂げる成功体験を積み重ねていくことで、ミドルリーダーとしての自信につなげる。
- ④ 現在機能している **OJT** をさらに推進することにより、若手教員を育てる。
- ⑤ 管理職による授業観察を通し、全教員への適時性のある指導助言を行うことで授業改善を図る。

- ⑥ **自己啓発**が専門性向上の基本であることから、特に教科研究に関わる情報を積極的に提供し、研究会、研修会への参加を後押しすること。
- ⑦ 「授業観察期間」において、週ごとの指導計画に参観予定の授業を明記することで、授業の空き時間に他の学級の授業を確実に参観して、自己の授業改善に生かすようにすること。

(6) その他